

優秀賞

大企業区分

## 三井住友建設株式会社

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	東京都中央区佃二丁目1番6号
業種	建設業
社員数	2,764名(単体)、4,633名(連結)
受賞歴	2016 奨励賞、2017 奨励賞
ウェブサイト	<a href="https://www.smcon.co.jp/">https://www.smcon.co.jp/</a>

### 持続可能な開発に貢献できる人材開発の取組

#### 取組の目的

総合建設業が、『持続可能な開発』に貢献し、価値創造(課題解決)するために必要な人材の育成に取り組んでいる。現代社会の課題を自身の問題として捉えることができ、自身の業務・私生活の中で、長期的な視点とグローバルな視点を持ち、課題の解決につながる新たな価値観・行動を生み出せる人材を必要としている。弊社では、2020年をターゲット時期に設定した「環境ビジョン」を掲げ、環境経営活動を推進してきたが、現在、2030年ターゲットとした新しい「環境ビジョン」を検討しており、その中で2030年には、気候変動問題をはじめ、これまで以上に深刻な課題が出てくると考えていることから、特に以下の人材を育成している。

- ・ 近年の社会動向(パリ協定・SDGs・ESG投資等)に対して、社会課題(ニーズ・要望)を捉えビジネスに反映・強化する人材
- ・ 「SDGs」に貢献する事業(再生可能エネルギー・気候変動の適応策・国土強靱化・海外インフラ等)を支える人材
- ・ 様々な環境法規制の制定・改定や各種ガイドラインに、迅速かつ適切に対応でき、法規制違反・汚染事故の防止徹底につなげる人材

SDGsへの貢献を背景に、「環境 人づくり」に貢献するため、地域社会・地元住民とのコミュニケーションを深めて、パートナーシップを構築し、持続可能な社会を実現するための啓蒙活動を継続的に行なっている。

## 取組の実績

### 1. 社員への環境教育・研修による人づくり

#### 1) 全社員向け教育

実施体制: eラーニング(社内ネットワーク利用)

実施方法: 全社員に受講案内を送信し、受講後テスト・アンケートを実施(未受講者にはリマインドメール送信)

#### <教育テーマ1: 生物多様性>

教育内容: 生物多様性をメインテーマに、以下の①-③の教育を実施した。

- ① 生物多様性をめぐる近年の状況(生物多様性民間参画ガイドラインと生物多様性国家戦略等)
- ② 「生物多様性の保全」と「持続可能な自然資本利用」の考え方
- ③ バリューチェーン全体での自然資本への影響

#### <教育テーマ2: SDGs の概要>

教育内容: SDGs の概要

持続可能な企業になるために何をすればよいか

### SDGs の活用によって広がる可能性

<h4>企業イメージの向上</h4> <p>SDGs への取組をアピールすることで、多くの人に「この会社は信用できる」、「この会社で働いてみたい」という印象を与え、より、<b>多様性に富んだ人材確保</b>にもつながるなど、企業にとってプラスの効果をもたらします。</p>	<h4>社会の課題への対応</h4> <p>SDGs には社会が抱えている様々な課題が網羅されていて、今の社会が必要としていることが詰まっています。 これらの課題への対応は、<b>経営リスクの回避</b>とともに<b>社会への貢献</b>や<b>地域での信頼獲得</b>にもつながります。</p>
<h4>生存戦略になる</h4> <p>取引先のニーズの変化や新興国の台頭など、企業の生存競争はますます激しくなっています。今後は、SDGs への対応がビジネスにおける<b>取引条件</b>になる可能性もあり、<b>持続可能な経営を行う戦略</b>として活用できます。</p>	<h4>新たな事業機会の創出</h4> <p>取組をきっかけに、地域との連携、新しい取引先や事業パートナーの獲得、新たな事業の創出など、今までになかった<b>イノベーション</b>や<b>パートナーシップ</b>を生むことにつながります。</p>

全社員向け SDGs 教育の資料(抜粋)

#### 2) 経営層(部長職)向け教育

実施体制: 部長職を集め、セミナーを実施

実施方法: SDGs 先進企業(住友化学)から講師を招き、実施

教育内容: 住友化学における SDGs の考え方、取組を紹介

#### 3) ミドル・マネージャー研修

教育対象: ミドル・マネージャー(本年度、昇格した人)

実施体制: ミドル・マネージャーを対象とした研修会の中で実施

実施方法: 社外講師による環境講習を実施

教育内容: 社会に大きな影響を与える気候変動対応(緩和策・適応策)について、講義・ディ

べートを実施

講義： 気候変動の最新動向 『パリ協定』時代の建設業

ディベート： 新たな商業施設建設は、コスト重視？ 温暖化対応重視？

#### 4) 環境担当者(関連会社)の教育

実施体制： 講習会を実施

実施方法： 自社社員による講習

教育内容： 関連会社の環境意識向上と環境リスクの排除を目的に、以下のテーマで実施  
・「建築物の解体等に伴う有害物質等の適切な取り扱い」

① 解体に関する法律・届け出

② 石綿・フロン・蛍光灯の具体的な取扱方法

・社外イベント情報(ライトダウンキャンペーン、エコドライブ活動表彰)の紹介

#### 5) 技術者(施工部門)の教育

##### <建設副産物・環境保全・騒音・振動対策教育>

教育対象： 入社年次に応じた環境担当者教育

教育内容： 作業現場での環境法規制等遵守のため建設副産物・環境保全・騒音・振動等の  
対策教育

##### <現場における生態系保全活動の推進・運用>

教育対象： 生態系保全の観点で、特に注意が必要になる作業所では、発注者と一丸となり、  
生態系保全活動を行っている。

教育内容： (一社)生物多様性アカデミーの指導・支援を受け、環境の取組み・環境技術開発  
環境  
社員の環境保全意識の高揚と情報発信

参考資料： (日建連)建設業の環境自主行動計画、日建連・生物多様性行動指針 -解説と  
具体事例-

#### 6) 環境パトロール点検担当者の教育

教育対象： 新任の支店環境パトロール点検者

実施方法： 教育が必要な担当者がある支店にて、実施。(1年間で、4支店で開催した)

教育内容： 作業所の環境法規制を遵守するため、座学講習と作業所での実施指導による教  
育

#### 7) 新入社員の講習

実施体制： 新入社員を対象に、入社から半年後に行われるフォローアップ研修の中で実施

実施方法： 社外講師による環境講習を実施

教育内容： 環境面で若い世代に期待していることを理解してもらうために、以下のテーマで、  
講義・ディベートを実施

講義テーマ： 環境に関する最新動向(パリ協定、SDGs等)と建設業界に期待される役割

ディベートテーマ： 海洋プラスチック問題等をふまえてペットボトル使用の是非

#### 8) グローバル人材の育成

現地スタッフ・パートナー企業の技術力向上により、海外での営業領域を拡大し、インフラの早  
期供給・経済発展に貢献

実施体制： フィリピンに人材開発センターを開設し育成

## 2. 積極性・自主性を促す人づくり(表彰・社内イベント・エコ検定の受験推進)

---

### 1) 表彰制度

環境意識向上と環境経営活動の水平展開を目的に、優れた環境経営活動を表彰する制度を設けています。

#### <社長賞表彰>

表彰目的: 環境経営に向けた社員の意識啓蒙、士気向上(2012 年度に創設)

選考基準: 環境ビジョンの3つの軸(地球温暖化の防止、循環型社会の形成、生物多様性への配慮)のいずれかに効果があること当社が環境経営に取り組んでいることを広くアピールできる要素(有効性・自主性・社会性・独創性・継続性・容易性など)にあふれ、当社が環境保全活動を実施する上で模範となるもの

実施体制: 全社からの応募を募り、審査の上、経営層による最終選考と社長による表彰を実施

### 2) 社内イベント

社員への環境意識の更なる浸透と、環境活動の取組みの定着を目指し、環境イベントを定期的に開催

#### <緑のカーテンフォトコンテスト>

作業所、社員の家庭、関連会社にも展開し、社内ウェブサイトを利用し、社員投票により、優秀賞を選考しました。本年度は、特別出展として研究所に設置したビオトープ写真の応募があり、環境意識の広がりが見られました。

#### <ライトダウンキャンペーン>

『ライトダウンキャンペーン』(環境省主催)に賛同し、地球温暖化防止と時短の促進を目的に、6月21日「夏至の日」と7月6日※にライトダウンを実施しました。(※曜日の都合により、環境省の特別実施日7月7日クールアースデーの前日実施)本店オフィス、各支店オフィス・作業所で夜8時消灯を、実施。

### 3) eco 検定受験者のサポート ※添付資料 13

教育対象: 受験を希望する全社員

実施内容: 自社で過去問をもとに作成した練習問題を社員に提供。社内 web 掲示板を活用し、社外の無料講習会・受験日程等の情報を全社員に情報共有した。

## 3. 地域住民とのパートナーシップによる人づくり

---

### 1) 市民公開講座

地域との連携は環境教育の一環として継続している。(3年目の活動になり、今回で4回目の開催。過去には「親子野鳥観察会」、「セミの羽化の観察会」、「親子ハゼ釣り大会」などを開催)

教育対象: 地域住民・社員の参加希望者

実施体制: 日本自然保護協会・NPO 法人(チームくじら号)・特別支援学校(※1)と連携し、講演会・地元の児童館(佃児童館)の子ども達による成果発表(すずむしプロジェクト)・おぜしかプロジェクトの取り組み紹介(鹿革工芸のバッジ作りを体験)を行なった。(添付資料参照)

教育内容: 「生物多様性」・「海洋プラスチック問題」・「尾瀬周辺で深刻化するシカ農業被害



対策の社会貢献活動」

※1 革工芸ワークショップで使用した素材準備・縫製は、特別支援学校の生徒に協力をいただき、その謝礼を、おぜしかプロジェクトを通じて、特別支援学校が寄付として受領できる仕組みにしており、特別支援学校にも弊社の活動についてご認識とご理解をいただくことができた。

成果・課題

1. 社員への環境教育・研修による人づくり

1) 全社員向け教育(受講者数:)	教育テーマ 1: 生物多様性 3361 人 教育テーマ 2: SDGs 教育 3211 人
2) 経営層(部長職)向け教育	76 人
3) ミドル・マネージャー研修	78 人
4) 環境担当者(関連会社)の教育	5 人
5) 技術者(施工部門)の教育	該当者
6) 環境パトロール点検担当者の教育	該当者
7) 新入社員の講習	109 人
8) グローバル人材の育成	2016 年にフィリピンに人材開発センター開設 (現地社員の育成教育を実施)

2. 積極性・自主性を促す人づくり(表彰・社内イベント・エコ検定の受験推進)

1) 表彰制度 応募数	表彰数: 8 件 (応募総数 30 件)
2) 社内イベント	
<緑のカーテンフォトコンテスト>	表彰数: 25 件 (応募総数 64 件)
<ライトダウンキャンペーン>	実施拠点: 本支店 11 拠点、作業所 234 ヶ所
3) eco 検定受験者のサポート	第 24 回試験(2018 年 7 月) 合格者 69 人



緑のカーテンフォトコンテスト 入賞作品

### 3. 地域住民とのパートナーシップによる人づくり

#### 1) 市民公開講座

60名を超える多くの方々にご参加いただいた。講義だけでなく、子どもたちによる発表（スズムシプロジェクト）、鹿革加工の体験型ワークショップにより、楽しみながら生き物・自然環境の理解を深めることができた。日本自然保護協会が、弊社と連携して、生物多様性のワークショップを開催したことを、協会の公式HPでもご紹介いただいた。（日本自然保護協会が、建設業者と連携した活動をプレスリリースするのは、初めてのケースとのこと）

### 今後の改善

#### 1. 教育・研修への取組

##### <全社員向け教育>

SDGs についての認知度は、向上したが、事業との一体化を目指していくためには、より深い理解が必要と考えている。本年度下期には、SDGsと関連の高い「パリ協定」、「ESG投資」を絡め環境教育（eラーニング）を全社員に実施予定。

##### <ミドル・マネージャー研修>

社外講師を招いて、講習を行ったが、ディベートの時間が短いので、もう少し長い時間を取ってほしいとの要望があった。来年度は時間を長く設定いただけるように努力したい。

##### <エコ検定>

新入社員の多くが、受験したものの不合格者（3割程度）が出た。来年度の合格率を向上させる必要がある。

練習問題だけでなく、用語集・年表等の受験対策資料を整備したい。

#### 2. 積極的・自主的な環境意識向上を促す取組

##### <緑のカーテンフォトコンテスト>

応募作品の一部に、壁面緑化が写っていないガーデンニング写真が、含まれていた。「緑のカーテン」の趣旨である壁面緑化による空調の消費電力削減を認識してもらうよう工夫する。

##### <ライトダウンキャンペーン>

業務上の仕方のないことかもしれないが、一部の居室では電気がついており、業務を継続していた。業務効率化と意識強化により、消灯・帰宅を徹底するように工夫したい。

#### 3. 地域社会との協業による取組

今後も継続して開催し、地元の皆様と当社とのパートナーシップを活性化させる。

今回、連携して活動した社外の団体・支援学校とも、活動を継続することで、信頼関係を深めたい。

## 関連・補足情報

1. コーポレートレポート  
[https://www.smcon.co.jp/csr/assets/uploads/index/SMCC\\_CorporateReport\\_2018.pdf](https://www.smcon.co.jp/csr/assets/uploads/index/SMCC_CorporateReport_2018.pdf)
2. 環境への取組  
<https://www.smcon.co.jp/csr/csr-environment/>
3. 環境活動一覧(社長賞・緑のカーテンコンテスト)  
<https://www.smcon.co.jp/csr/csr-environment/d/>
4. 市民公開講座 (日本自然保護協会 プレスリリース)  
<https://www.nacsj.or.jp/media/2018/09/12813/>
5. 市民公開講座 (弊社プレスリリース)  
<https://www.smcon.co.jp/topics/2018/09200907/>

## 審査委員会からの講評

総合建設業として持続可能な開発に貢献し、価値創造するために必要な人材の育成に取り組むことを目指している。特にパリ協定、SDGs、ESG 投資を意識し、2030 年をターゲットとして社会課題を捉えビジネスに反映・強化する人材を育成しようとしている点は高く評価したい。

社員研修は全社員が参加する e ラーニングをはじめ、経営層、ミドル・マネージャー、関連会社環境担当者、施工部門技術者、新入社員などの階層別にきめ細かく計画され、例えば、経営層向けにはSDGs 先進企業(住友化学(株))から講師を招いたり、新入社員には海洋プラゴミ問題を踏まえてペットボトルをテーマにディベートさせるなど工夫のあとが感じられる。

また、地域貢献にも力を入れ、NGO(日本自然保護協会)と連携して地域住民や社員を対象に市民公開講座を開催していることも評価できる。